

地域とともに未来をひらく

東北電力からのお知らせ

本誌は女川原子力発電所が立地している女川町、石巻市と、隣接する登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町の皆さまに、女川原子力発電所の情報を中心にお知らせしていくものです。

水と風と太陽と、
大地の力で、
電気をつくる。



能代風力発電所（秋田県）

東北の自然の恵みを 生かしています。

エネルギー資源の大半を海外からの輸入に依存する日本にとって、水や風、太陽、地熱は貴重な純国産資源です。私たち東北電力企業グループは、電気やエネルギーを安定してお届けするだけでなく、地球温暖化の原因といわれているCO₂(二酸化炭素)排出の少ない電気を「つくる」ことも、電力会社の使命と考え、再生可能エネルギーの利用拡大に努めています。

東北電力は、水力発電や地熱発電の導入、風力発電の実用化においては、早くから積極的に取り組んできました。当社の発電電力量に占める再生可能エネルギーの割合は約12%（2013年度実績）と、電力会社のなかでも高い割合になっています。



再生可能
エネルギーを
利用している発電所
(東北電力企業グループ)

女川原子力発電所における 安全対策工事工程の見直しについて 平成29年4月完了を目指し安全対策工事を 進めてまいります

女川原子力発電所2号機については、新規制基準への適合性審査について、幅広い項目で原子力規制委員会による審査が進められています。（7月末現在、審査会合61回）

安全対策工事については、審査と並行して実施しているところですが、これまでの審査の過程で得られた知見や評価を踏まえた結果、より安全性を向上させる観点から、非常用ディーゼル発電機用の軽油タンクを地下式にすることといたしました。また、発電所内部の火災防護対策を強化することとし、これに伴う工事量の増加が見込まれます。

こうしたことから、2号機の安全対策全体の工事工程を見直し、平成29年4月の工事完了を目指すことといたしました。なお、工事が完了する平成29年4月以降、地域の皆さまのご理解を得ながら、準備が整った段階での再稼働を目指してまいります。

今後とも新規制基準への適合性にとどまらず、原子力発電所のさらなる安全レベル向上に向けた取り組みを継続的に進めてまいります。

おでかけ暦

※期間・会場等はすべて予定です。詳細は各市町にお問い合わせください。

9月 September	10月 October	11月 November
女川町 マリンバル女川 おさかな市場「さんまつり」 期間:9月12日(土)、13日(日) 10:00～15:00 会場:マリンバル女川おさかな市場 ツール・ド・東北2015 期間:9月13日(日)5:30から順次スタート(気仙沼ワンウェイコースは8:30スタート) コース:石巻専修大学スタート4コースほか 神鹿角切り行事祭 期間:10月4日(日)10:00～ 会場:金華山黄金山神社(女川港・鮎川港から増便が出港します)	東松島市 奥松島縄文村まつり 期間:10月18日(日) 会場:奥松島縄文村歴史資料館 東松島絆クロスカントリー大会 期間:11月29日(日) 会場:鷹来の森運動公園	涌谷町 わくや産業祭2015 期間:10月12日(月・祝) 会場:涌谷公民館 町民文化祭 期間:10月31日(土)、11月1日(日) 会場:涌谷公民館 第31回秋の山唄全国大会 期間:11月14日(土)、15日(日) 会場:涌谷町勤労福祉センター
石巻市 牡鹿鯨まつり 期間:9月13日(日)10:00～14:30 会場:鮎川浜(旧牡鹿公民館跡地) ホタテまつり 期間:10月11日(日) 会場:おがつ店こ屋街 いしのまき大漁まつり 期間:10月18日(日) 会場:石巻魚市場	美里町 宮城県畜産共進会 期間:9月12日(土) 会場:みやぎ総合家畜市場 おんべこ産業まつり 期間:10月31日(土) 会場:美里町トレーニングセンター ひとめぼれマラソン 期間:11月3日(火・祝) 会場:美里町トレーニングセンター周辺	
登米市 とよま秋まつり 期間:9月19日(土)、20日(日) 会場:登米(とよま)町寺池地区 柳津虚空蔵尊秋季大祭 期間:10月12日(月・祝)、13日(火) 会場:津山町柳津虚空蔵尊 第19回佐沼秋のフリーマーケット 期間:10月18日(日) 会場:迫町中江中央公園	南三陸町 志津川湾タコまつり福興市 期間:9月27日(日)9:00～14:00(予定) 会場:未定 南三陸町産業フェア 期間:11月1日(日)9:00～14:00 会場:ベイサイドアリーナ周辺(予定) 志津川湾鮭・いくらまつり福興市 期間:11月29日(日)9:00～14:00 会場:ベイサイドアリーナ周辺(予定)	

涌谷町は “小ねぎ”の名産地。

涌谷町は関東以北では最大の小ねぎの産地です。小ねぎは青ねぎを若採りしたもので、涌谷町では昭和62年頃から本格的に生産が始まりました。多くの人たちのたゆみない努力により、今では涌谷町のブランド野菜といえるまでの大きな存在に育ってきました。「小ねぎで地域をもっと元気にしたい」という熱意は、まだまだ衰えることを知りません。



健康な土づくりから生まれる、 高品質とおいしさ。

「小ねぎは薬味として知られますが、栄養バランスに優れた緑黄色野菜です。食材として味や香りをもっと楽しんでいただきたいです」と語るのは氏家農場社長・氏家靖裕さん。父親がかつて、小ねぎの産地化へ取り組んだ情熱を引き継ぐように、平成11年に生産を始めました。



農業生産法人 有限会社 氏家農場
氏家 靖裕さん

品質は健康な土づくりから生まれると、氏家さんは土にこだわります。「収穫ごとに太陽熱消毒し、米糠などの有機質肥料を混ぜて優良微生物を活性化させ、健全な土をつくるのが大切です。土壌分析も年3～4回行い、有効成分の過不足を補っています。野菜づくりは、まず土が基本です」。



冬場対策としては、ウォーターカーテン(二重にしたハウスの屋根の間に地下水を噴霧し、外気の影響を低減する設備)の導入により徹底した温度管理で年間4回の収穫を可能にしました。こうした先進的な取り組みで、小ねぎのハウスは4年間で計56棟まで拡大。平成18年には農業生産法人となり、6次産業化を視野に、小ねぎを使ったドレッシングや練り味噌などの加工食品の製造・販売にも力を入れています。



食の安全や環境保全に取り組んでいる「JGAP認証農場」である氏家農場

涌谷町のブランド野菜、 小ねぎで広がる地域の力。

町ではほうれん草づくりの連作障害対策として、昭和50年代から九州への視察・研修を重ね、小ねぎの栽培に取り掛かりました。



氏家農場では、小ねぎを使った味そやたれ・ドレッシング・チーズなども開発。小ねぎ袋の裏面にはレシピを掲載し、小ねぎ料理を紹介している

涌谷町農林振興課の菊池武展さんは「最初は農家3戸で始めましたが、生産技術の集積が進んだ平成14年から数年は、年間数十棟のハウス建設ラッシュになりました」と振り返ります。大規模な資材導入に対し、町では当初から初期投資の負担軽減へ向けた支援を行っています。現在は施設整備だけではなく、販売・普及のためのPR活動も展開。「地元高校生が小ねぎのレシピを考え、飲食店がアレンジし、新しい味わいを提供するなど、新たな試みにチャレンジしています。小ねぎ普及の可能性が広がり、今年は若手2名が小ねぎの新規就農者となりました」。



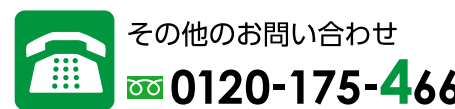
涌谷町農林振興課 菊池 武展さん

薬味のイメージから料理の食材として意識されることが需要拡大への一歩と、涌谷町は、小ねぎの新しい魅力の発信に努めています。

女川原子力発電所の安全対策をホームページで詳しく紹介しています。

<http://www.tohoku-epco.co.jp>

お問い合わせはこちらまで



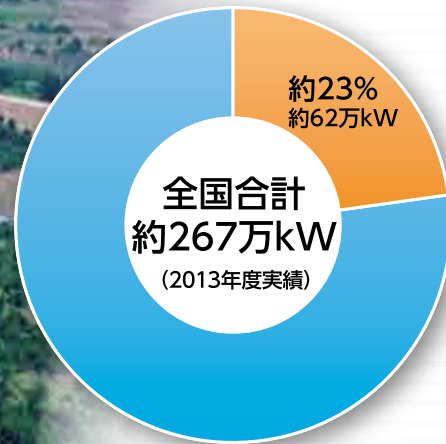
※お電話がつながりにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ※お問い合わせの内容によっては、担当部署からの折り返しの電話により対応させていただく場合がございます。

東北電力の知られざる3つの“日本一”

風力発電

風力発電の先進地・東北。

東北電力には国内初の集約型風力発電基地「竜飛ウィンドパーク(青森県)」を建設し、風力発電の実用化に向けた実証試験を行ってきた歴史があります。風まかせで出力が変わる風力発電は電力系統への連系が課題の一つでした。いまや東北電力の風力発電連系量は国内トップの62万kWですが、将来的には200万kWまでの拡大を目標に、様々な課題に取り組んでいます。



風力発電の
連系量が
“日本一”



年間約210万kWhを発電し、CO₂排出量を年間約1,000トン低減できる、仙台太陽光発電所(宮城県七ヶ浜町)

東北電力のメガソーラー。

東北電力の太陽光発電所は、八戸と仙台に加え、2015年1月には原町(福島県)が運転を開始しました。2016年3月には石巻蛇田が運転を開始する予定です。

【国内初の実証事業】 西仙台変電所に 大型蓄電池システム

気象条件によって出力が変動する再生可能エネルギーが増えれば、電気の品質ともいえる周波数を一定に保つことが難しくなります。そこで、周波数を安定させるため、大型蓄電池で蓄電、放電する実証試験に取り組んでいます。



TOPICS 東北自然エネルギー株式会社が発足

東北電力企業グループの東星興業(株)、東北水力地熱(株)、東北自然エネルギー開発(株)、東北ソーラーパワー(株)の4社が平成27年7月に合併し、再生可能エネルギー専門の新会社、東北自然エネルギー株式会社が発足しました。同社は水力、地熱、風力、および太陽光の発電所26ヵ所(約15万kW)を保有しています。

24台の風車で合計1万4,400kWの
発電を行う、能代風力発電所
(東北自然エネルギー株式会社/秋田県)

水力発電

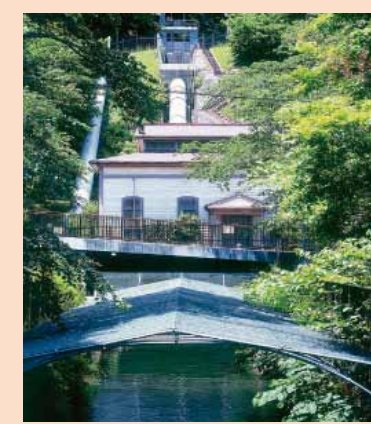
宮城県最大の水力発電所・
鳴子発電所



国内最多 230カ所の発電所。

水力発電は発電の過程でCO₂を出さないグリーン、かつ、純国産のエネルギーです。しかし、残念ながら大規模開発に適した地点はあまり残っていないともわれています。東北電力企業グループが保有する水力発電所は230カ所で、その数は国内最多です。

水力発電所の
数が
“日本一”



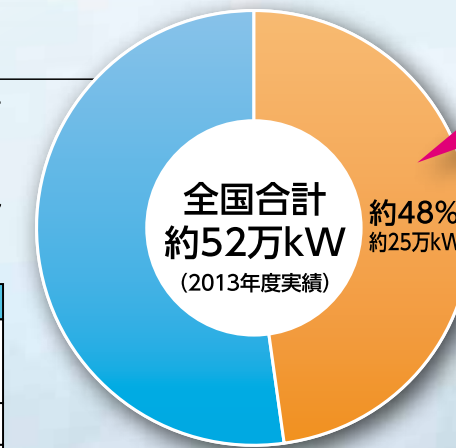
【水力発電の歴史はここから】

三居沢発電所

宮城県仙台市の中心部に近いところにある三居沢発電所は、日本の水力発電発祥の地であり、東北ではじめて水の水力で明かりが灯った場所です。三居沢発電所は、明治21年(1888年)から120年以上たった今もこの地で発電を続けています。東日本大震災で激しい揺れに襲われましたが、ほとんど被害もなく、設備点検を終了した3日後には発電を再開しています。

日本の地熱エネルギーの 半分は東北電力。

いま、日本では18カ所で地熱を利用した発電を続けており、合計出力は約52万kWです。東北電力と東北電力企業グループの地熱発電所は5カ所6基で、全国の地熱発電の約48%・総出力約25万kWです。



地熱発電
設備容量が
“日本一”

発電所名	所在地	認可出力
葛根田	岩手県雫石町	1号機 50,000kW 2号機 30,000kW
上の岱	秋田県湯沢市	28,800kW
澄川	秋田県鹿角市	50,000kW
柳津西山	福島県柳津町	65,000kW
松川*	岩手県八幡平市	23,500kW

*松川地熱発電所は東北自然エネルギー株式会社が発電事業を行っています。



発電所1基あたりでは日本最大の出力実績を持つ、柳津西山地熱発電所(福島県)

地熱発電



上の岱地熱発電所の冷却塔(秋田県)